

Title	一つの提案
Sub Title	
Author	浅子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1931
Jtitle	史学 Vol.10, No.4 (1931. 12) ,p.80(634)- 80(634)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19311200-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

一つの提案

神佛習合思想の一つの形式として神宮寺なるものがある。そしてその最も早く記録にあらはれてゐるのは氣比の神宮寺であつて、武智麻呂傳靈龜元年の條にその建立の次第が語られてゐる。即ち

此年、在京人得_レ瑞龜_ニ改_レ和銅八年、爲_レ靈龜元年、公嘗夢遇_レ一奇人、容貌非常、語曰、公愛慕佛法、人神共和、幸爲_レ吾造_レ寺、助_レ濟吾願、吾因_レ宿業、爲_レ神固久、今欲_レ歸_レ依佛道、修_レ行福業、不_レ得_レ因緣、故來告_レ之、公疑是氣比神、欲_レ答不_レ能而覺也、仍祈曰、神人道別、隱顯不同、未_レ知_レ昨夜夢中奇人是誰_レ者、神若示驗、必爲_レ樹_レ寺、於_レ是神取_レ優婆塞久未_レ勝足_ニ置_レ高木末_ニ因_レ稱_レ其驗、公乃知_レ實、遂樹_レ一寺、今在_レ越前國_ニ神宮寺是也、とある。

要するに神宮寺の緣起は宿業に因つて神々の位に止まらなければならぬ神々に對して佛道修行の因縁を與へようとして建てられたものであるといふ悉く同一の思想に支配されてゐるのである。

問題は神佛の關係が越前國に於いて早くもあらはれてゐるといふことである。このことは神代史に見る同地方を思ひ合せて或る暗示を我々に與へるものでなければならぬ。即ちそれは日本海による大陸との交通である。

思ふに當時越前の地方は高度の大陸文化の刺戟を受けた特殊の文化區域を構成してゐたものではあるまいか。兎に角越前の地方は古代文化史にもつと強く自己を主張し得る權利を有するのではなからうか。(淺子勝二郎)